



しげ た えい き
重田 英貴 (55)

Profile

出身：東京都八王子市

所属：地域づくり推進課

任期：R5.05.01 ～

【活動ミッション】

山形鉄道を活用した新しいまちづくり

「赤湯駅で新幹線に接続」、「JR を除いた私鉄として県内唯一」「トンネルがなく、インフラ維持コストが他の鉄道より低い」「自治体に存続させる明確な意思がある」これらのメリットを生かしていくことが重要。

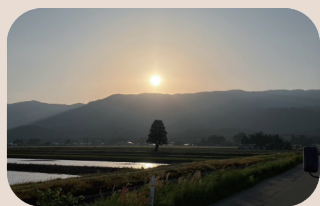
活動紹介 01

山形鉄道カルチャーフェスの開催



今年はフラワー長井線全線開通 100 周年であり、通常行われているフラワー長井線祭りに加え、その前日には文化的な催しを行った。具体的には、モビリティ大学学長によるまちおこしをテーマとした講演、阪急阪神ホールディングス DX 推進部長によるマーケティングの取り組みに関する講演、地元高校生による山形鉄道マーケティング探求活動の成果発表、山形大学、東北大学による山形鉄道の研究、分析の発表等の文化的催しと、オペラ公演、落語、ミニコンサートを実施した。

長井市のここが好き！



長井市の文化、市民性

長井のひとは地域外の人との交流が上手です。私は多くの国や都市で活動してきましたが、この点から、長井市が「最上川の人流と物流拠点であった」ことを、深く改めて認識しました。

協力隊になったきっかけ

1991 年から 2014 年まで JR 貨物にて運輸、事故防止、運行管理、勤務制度の検討及び業務効率化、情報システム、国際物流等の業務に関わり、その後は海外の国鉄や運輸関係省庁へのコンサルティング業務に従事してきました。コロナ等の影響により海外プロジェクトの停止等が重なり、国内へ目を向けたところ、山形鉄道の現状を知りました。自身の経験とノウハウを活かし、まちおこしと山形鉄道の課題解決に取り組むこととして、協力隊に応募しました。

活動紹介 02

「やまがた景観賞」への応募



山形経済同友会が主催する第 36 回「やまがた景観賞」に、山形鉄道のこれからの取り組みとして「山形鉄道 Future 100」をテーマにまとめ、応募した。一次審査で置賜地方の代表となり、山形グランドホテルにてプレゼンテーションを、山形鉄道社長・専務、長井市職員と共に実施した。残念ながら最優秀賞には選ばれなかったものの、発表の様子は TV でも放送され、山形鉄道の存在と、これからの経営に向けた取り組みを、経済界幹部にアピールすることができた。

今後の抱負

地域に根差した路線である山形鉄道「フラワー長井線」の将来につながる継続的な運行と地域の活性化を図るため、沿線一帯と連携した利用拡大と運営の安定化に向けて取り組んでいきます。

隊員に質問！

Q. 無人島で 1 ヶ月暮らすとき 1 つだけ持って行くものは？

A. なんでもいい（特に何もいない）

1 ヶ月も無人島で暮らせること自体が、ご褒美です。それが出来るなら、「リクエスト」なんて贅沢いいません。

Q. 長井市に一つだけ何でも建つとしたら何がいい？

A. 宇宙基地

世界だけでなく、全宇宙の人や物とのコミュニケーション拠点になるから。